

エレナ島 (Elena) における 「アラリヤ (Araliya)」エコ部隊の森林保全活動

- 1 自治体名： 沿海地方
- 2 発表者名： シャラポワ・クセニヤ (Sharapova Kseniya)
(ウラジオストク市第71号総合学校、11年生)
- 3 活動名： エレナ島における「アラリヤ」エコ部隊の森林保全活動
- 4 活動期間： 1998年～
- 5 活動場所： ウラジオストク市、エレナ島
- 6 活動人数： 毎年20～25名(これまでの累計で300人以上)

7 活動をはじめた経緯

エレナ島の自然環境は独特なものであり、島の森林を保護するための緊急的な対策が必要となったことから。

8 発表要旨

エレナ島は沿海地方南部にあるピョートル大帝湾の島々の一つである。現在、この島は市民のリクリエーション場であり、夏の利用者は一日1000人を上回ることがある。このような時には、リクリエーションによる自然への負担が大幅に増加している。1998年に「ロシアのグリーンクロス環境教育研究室」によって、島に公共エコ監視所が設置された。

エコ監視所を設置した時から、その活動に「アラリヤ」エコ部隊が参加している。私は2007年から「アラリヤ」エコ部隊のメンバーになっている。エコ部隊のメンバーは、13年間夏の間エレナ島で自然保護、研究および環境教育啓発等の活動を行っている。

最も重要で興味深い活動の一つとして、島の植物相の研究と保護活動がある。島の面積の半分以上は、美しく貴重な植物群落からなる森林生態系に覆われている。その植物群落にはレッドリストに載っている樹木、蔓、草花も含まれている。

夏季には、デヴャトカ (Devyatka) 湾だけで数万人の利用者が休暇をとっている。自然への悪影響を避けるため、また森林火災を減らすために、森林から離れた礫の海岸沿いに12か所の焚火用常設場所を設備した。さらに、森林に近い7か所の焚火の跡を片づけた。

グリーンクロス環境教育研究室と軍事営林署とが2009年まで結んでいた契約によって、公共エコ監視所のメンバーは森林利用違反する者の取り締まりを手伝うことができた。この活動のおかげで、密伐採の回数がシーズン中30-50件から2-5件まで数十分の1にも減少した。

森林を走る自動車によって、若い樹木と土壌に与える被害を避けるために、「アラリヤ」エコ部隊は何度も大きな石を用いて土手を作り、遮断施設を設置した。この活動のおかげで、ツーリストは島に自動車で来なくなった(2005年には5件があったことに対して、2010年には0件になった)。

残念ながら、多数の休養者は大量のゴミを残している。啓蒙活動、ゴミ置場設置、ゴミ袋配布および毎日のパトロールがあるにもかかわらず、森林の最も遠い地域にもゴミが出ることもある。そのため、我々はエレナ島の清掃などの環境アクションに参加している。

エレナ島はリクリエーション場だけではなくて、混合林(広葉樹と針葉樹の森林)の劣化という沿海地方の重要な環境問題を解決するための場所でもある。島の開発には、伐採と森林火災を伴っている。その結果、19世紀末と20世紀初めに島がまだ豊かな蔓とクマシデの混合林に覆われていたが、今はカシとトネリコの林に代わってしまった。

ロシア科学アカデミー極東支部の植物学者は、ルースキー島とエレナ島の森林が初期の植物相を回復させるために十分な潜在力を持っていると推察し、我々にこの仮説を検証する研究への参加を呼びかけた。

この研究の枠組みの中で、我々は2000年の春に200本の朝鮮五葉を植樹した。2001年から2010年までにかけての10年間、エコ部隊のメンバーは植木の世話、成長過程の調査および保護活動を行った。残った木の状態を観察すると、混合林にとって良好な環境であること、また回復の可能性があることについての仮説を証明している。

エコ監視所での活動中、エコ部隊のメンバーによって、植物生態系や地理植物学に関して、多くの教育プログラムや研究プロジェクトが実現した。利用者の中で毎年環境教育啓発や環境キャンプの活動が行われるとともに、新聞が出版され、「健康の道」という探検コースが設置され、学校で環境博物館が創設された。

人間の活動によって森林で起きていること、例えばルースキー島でAPECに向けて会場の建築が進みエレナ島の自然が破壊されることを私はとても心配している。そのため、皆さんにも森林保全という問題に注意を向けてほしい。そして、自然保護の活動にできるだけ参加を呼びかけたいと思う。